



## 鳥取港西突堤



鳥取港西突堤と烏ヶ島

かつて賀露港は商港として栄えました。しかし、千代川が運ぶ砂によって港口は狭くて浅く、冬季は沖から帰ってくる船が船底を浅瀬に乗り上げ、舵がきかないまま横波を受けて遭難した例が数多くありました。明治 20 (1887) 年頃、鳥取県知事はオランダ工師デ・レーケを招き、賀露港を視察させました。この時デ・レーケの勧告を受けて、明治 23 (1890) 年に工事が始まりました。

西突堤工事は、砂による河口閉塞を防ぐため、千代川河口左岸にある烏ヶ島までを堤防で締め切る工事でした。突堤の長さは海岸から延長 418m、突堤の高さはおよそ 4.5m で、千代川史には「西海岸へ深く突き出した石堤は、海岸から烏ヶ島の半ばまで 50~100 キログラム程度の石塊が頑強にかみ合わされ、今様のコンクリートモルタルには見かけられない不思議な間詰工で固められ、完全な不透過構造になっている。その後一世紀近い現在まで日本海の荒波によくぞ耐えてきたものだと感心するのは筆者だけではなからう」とあります。

しかし西突堤築造により千代川の流れが変えられたため、突堤付近に砂丘が造られ、別の閉塞現象に見舞われました。新たな突堤が必要となり、明治 33 (1900) 年から東突堤（導流堤）工事が始まりました。この突堤は、千代川河口右岸から北西方向に長さ 195m の粗石積堤で、その構造や石材は西突堤の断面とほぼ同様のものでした。その後賀露港修築工事が進められ、東突堤は撤去・埋設されましたが、明治 33 年から昭和初期まで、立派に大役を果たしたと記録されています。

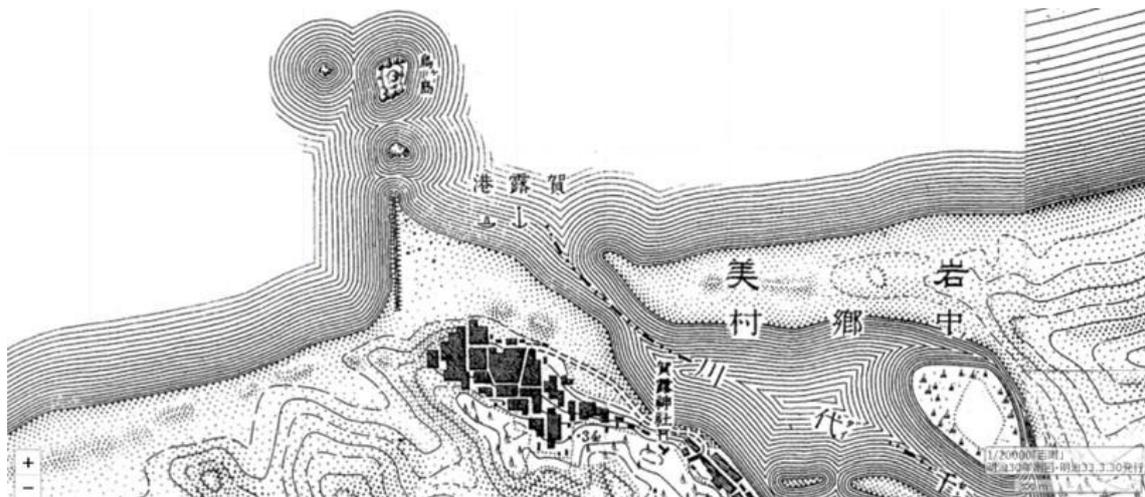
平成に入ってから西突堤西側に新たな漁港が造られ、その時、漁港の入口を造るために西突堤の陸地側 4 分の 3 ほどが撤去されました。現在は、烏ヶ島に接する付近 100m ほどの西突堤が残っています。撤去された石の一部は、賀露地区公民館庭に飾られています。

### 出典

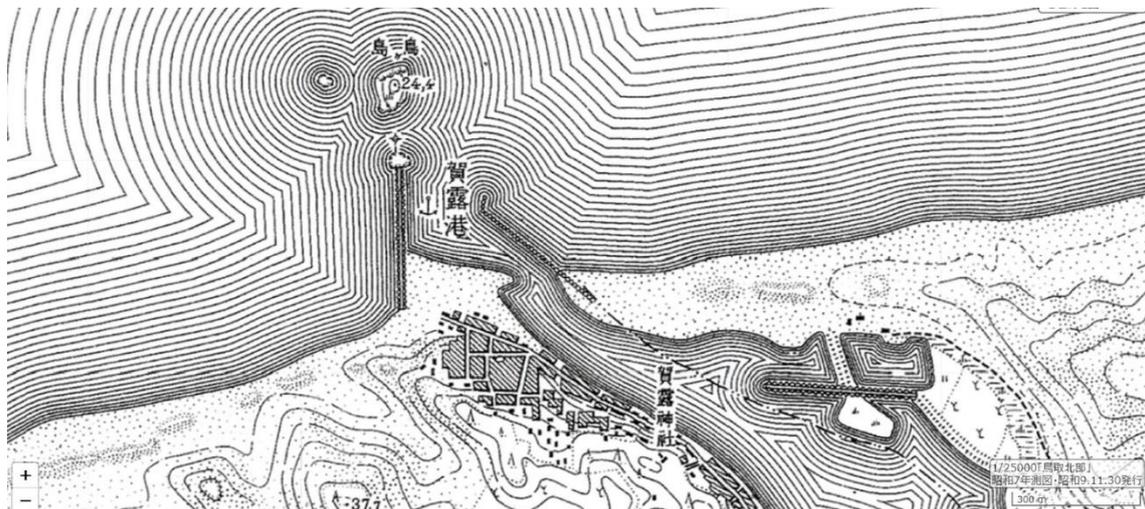
建設省中国地方建設局編 (1978) 「千代川史」

賀露町自治会 (2009) 「賀露誌」

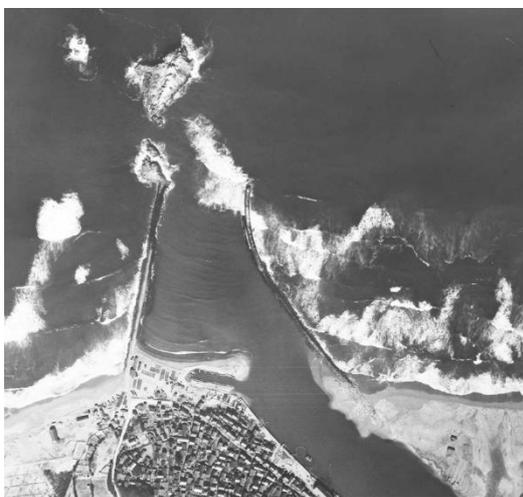
(参考) 時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」より



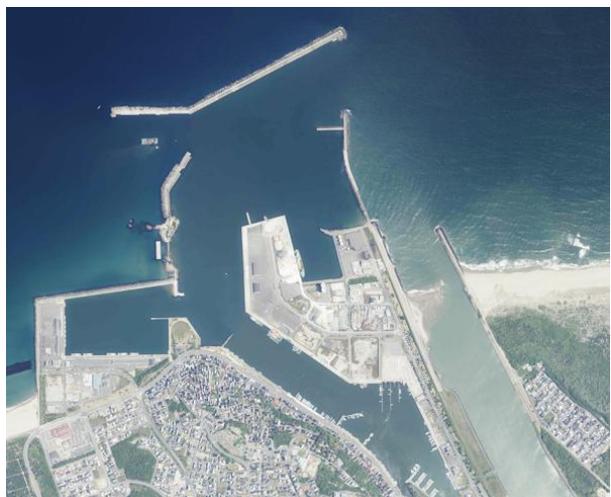
明治 30 年測図 西突堤千代川側に砂浜が見られます



昭和 7 年測図 東突堤構築により西突堤千代川側の砂浜が減少しています



昭和 27 年撮影



令和 3 年撮影

## 昔の思い出 六区 網尾 勲（西突堤部分を抜粋 原文のまま）

私どもの思い出には、海辺で育ち、海辺で遊び、殆んど海に関する事が多いが、昭和七、八年頃の西堤防を思い出そう。

陸の方は石垣があった。石垣の造り方は、「たたき」で接着してあった様だ。その頃の粘土や石は明治二十年頃、今の米倉下の船倉の所に、御台場があって、そこからトロッコを引いて、何処かの工事屋が、請け負ってしていたそうだが、当時の人夫の姿は、向こう鉢巻きにドンブリ腹掛け、黒の前掛けで粋な格好で、上小路の娘も港の娘も見に来ていたそうです。そして、明治二十二年頃、三百メートルの突堤が出来た後、見物の娘と仲良くなり（なじみ）、駆け落ちしたり、賀露に住み着いたりがちよいちょいあった。

それから、沖の小島までは、飛び飛び大石で、泳がなければ渡れなかったのです。でも、西堤が出来たら、現在の二千トン岸壁の辺りまで、砂が盛れる程出来、丁度、網の干し場や、船の上げ場になってきて、当時、油の浜（現、六区公民館）に住んでいた人達が、その砂浜に降り、本格的に地曳網の小屋や、貝がらむきの小屋、芝居小屋等を作りました。そして、明治三十三年には、東の突堤百九十メートルが、飛び飛びながら出来たそうです。東防も、七、八十メートルは砂の上に、二トンくらいの方塊（ほうかい）が二段で並べてあったのを覚えています。大正十三年には、先端百メートル延長されます。

昭和二年頃から、断続的に、西防の補強工事がなされます。その頃、賀露にも、塩谷組、秋本組、又、大谷村の沢組等が、年替わりに工事に当たりまして、石は大小とも、殆んど浜坂の「カイジ山」、或は「駟馳山（しちやま）」の石を石船に乗せて運んだものです。

昭和四年には小島に接続できたものです。私達も昔話を聞きながら、昔の人の労苦と生活は並み大抵ではなかったと思いますが、今の人達は、何か自然の歴史の様に眺めているではないでしょうか。

そして、昭和二十四年から二十六年にかけて、鳥ヶ島に白い丸い灯台が出来ました。珍しくて、夏は灯台に登り遊んだものでした。

そして、今の岩谷たばこ屋の所から、川口薬局までの下は、石垣の下まで水があって、「グリ」という岩盤があり、子供の遊び場としては絶好でした。岩の頭を飛びながら、鬼ごと（鬼ごっこ）をして、やたら（しばしば）はまったりしたものです。

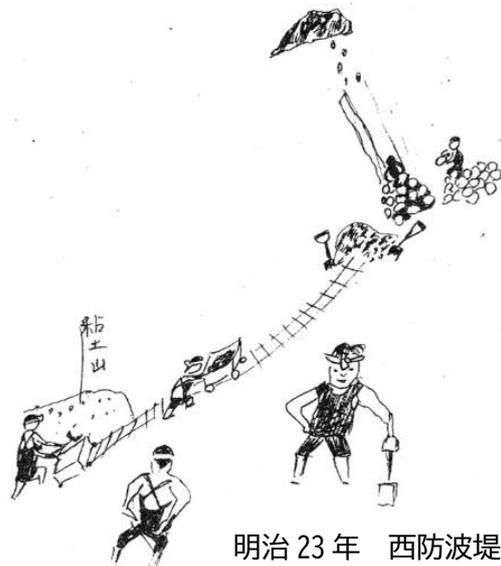
昭和二十四年頃には、当時、阪神築港が鳥取で工事をするようになりました。そして、三十四年には、東防の六十メートルの延長が始まりました。



「グリ」という岩盤

出典

賀露町自治会（2009）「賀露誌」



明治 23 年 西防波堤築造中